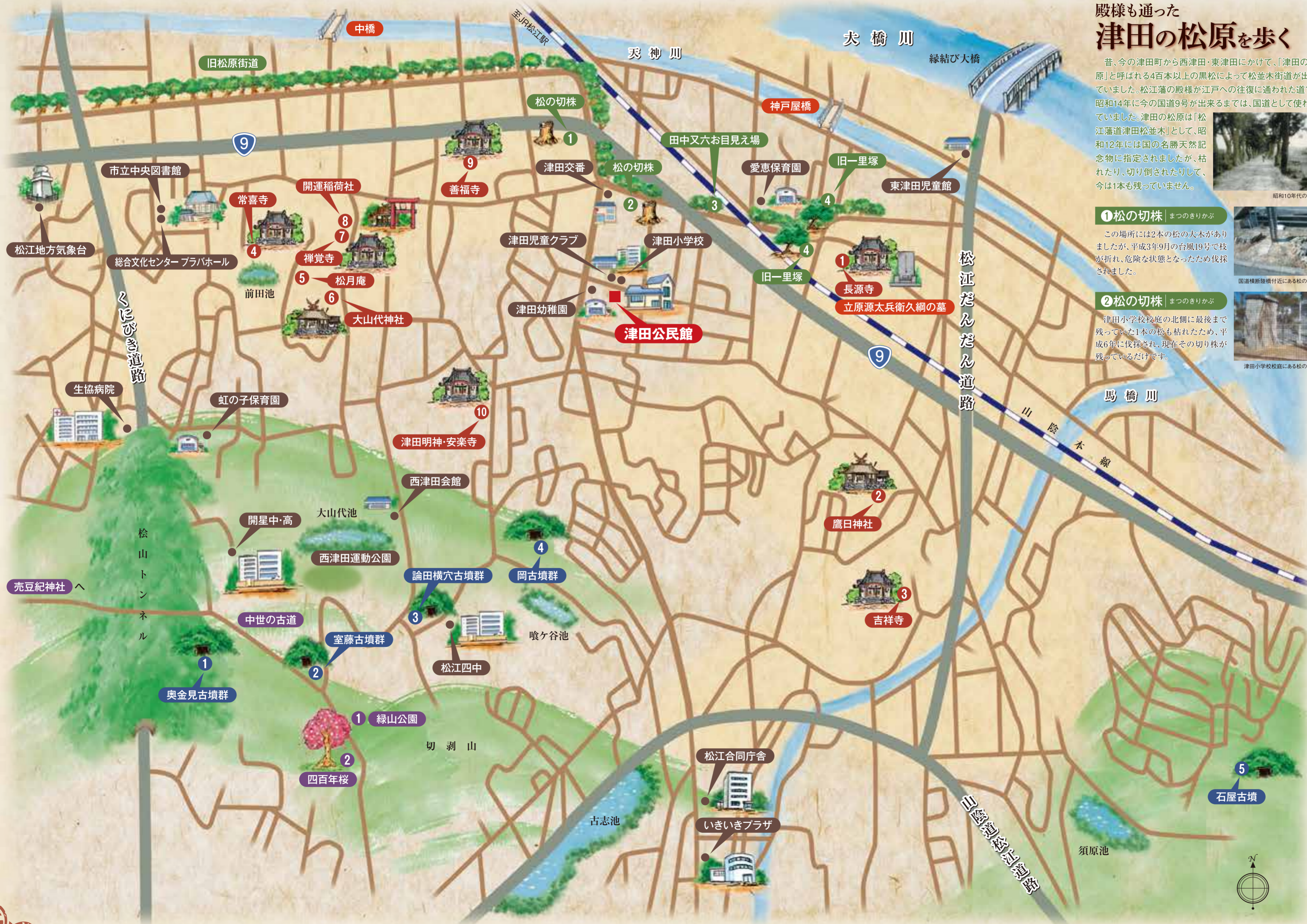
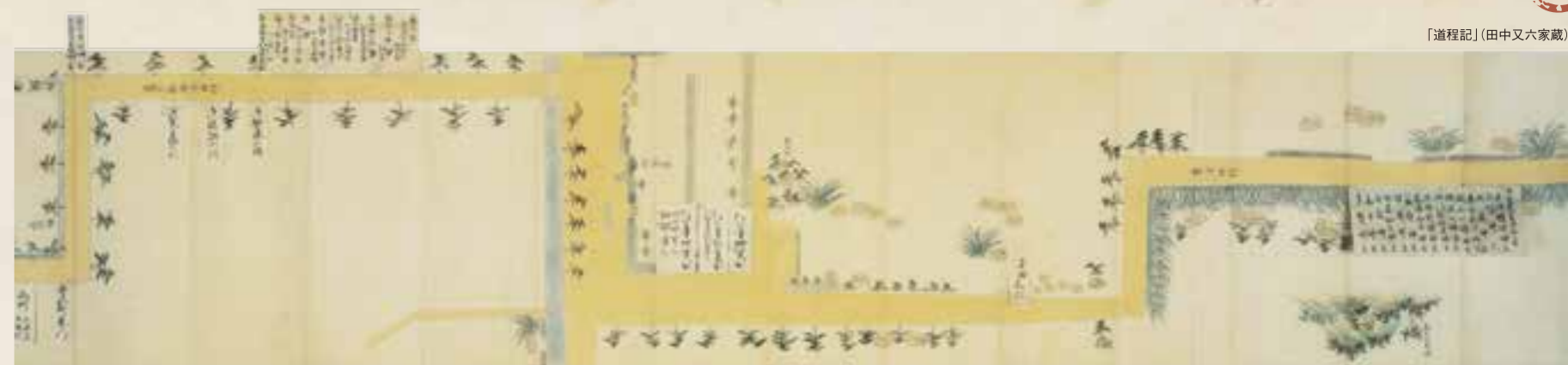


津田わがまち歩きルートマップ

毎日何気なく通っている道や橋、見なれた身近な風景の中に、昔の人々が暮らした跡がたくさん残っています。古墳が作られていた時代から、にぎやかな街に発展してきた今の時代へと絶え間なく流れ、街の様子を変えてきました。この津田の街を歩いていると、昔から言い伝えられてきたお話を思いおこしたり、力を尽くしてきた昔の人たちの声や心の響きが伝わってきます。



殿様も通った 津田の松原を歩く

昔、今の津田町から西津田・東津田にかけて、「津田の松原」と呼ばれる4百本以上の黒松によって松並木街道が出来ていました。松江藩の殿様が江戸への往復に通われた道で、昭和14年に今の国道9号が出来るまでは、国道として使われていました。津田の松原は「松江藩道津田松並木」として、昭和12年には国の名勝天然記念物に指定されましたが、枯れたり、切り倒されたりして、今は1本も残っていません。

- 1 松の切株** まつのきりかぶ
この場所には2本の松の大きな木がありましたが、平成3年9月の台風19号で枝が折れ、危険な状態となったため伐採されました。
- 2 松の切株** まつのきりかぶ
津田小学校校庭の北側に最後まで残っていた1本の松も枯れたため、平成6年に伐採され、現在その切り株が残っているだけです。

3 田中又六お目見え場 たなかまたろくおみえば

田中又六家は、堀尾の殿様が広瀬から松江に城を移されるときに、それに従って松江に来られました。そして、松江城の築城普請に当たって大変功勞があり、堀尾家から屋敷を賜り、今の地に住むことになられたそうです。この功績は京極氏、松平氏にも引き継がれ、特別の待遇を受けておられます。松原街道には、殿様が江戸へ出府される時やご帰城の折に、家臣などがお見送り、お出迎える「お目見え場」がありますが、田中又六家は単独のお目見えが許されており、その場所は田中家に残る「道程記」に記されています。現在は国指定の史跡となっています。

4 旧一里塚 きゅういちりつづか

一般に一里塚は江戸日本橋を起点として築かれていますが、津田一里塚は、松江城を起点として東へ1里(約4キロメートル)の東津田に築かれたものと言われ、道の両側に高さ2メートルばかりの塚を作り、松の木が植えてありました。その松は昭和3年の夏に枯れて倒れ、塚も昭和23年、耕地整理のため崩されて、今は残っていません。

津田の昔話

【立原源太兵衛久綱の墓】

東津田の長源寺に立原源太兵衛久綱(通称・立原源太兵衛)の墓があります。立原源太兵衛久綱は、戦国時代に山中鹿介を助け、尼子氏再興のため戦略を考へ活躍した武将です。墓石の台の石は、松江の法吉にあった白鹿城の落城の知らせを聞いた源太兵衛が、地団駄を踏んで悔しがり、持ち上げて投げつけた石だと伝えられています。

【若槻禮次郎と開運稲荷】

国道9号線の開運稲荷停留所のところに、開運稲荷への道しるべの石柱があります。ここを南に入ったところに開運稲荷があり、石段を登り、赤い鳥居をくぐると、社があります。昭和の初め頃、内閣総理大臣だった若槻禮次郎先生の書かれた「開運稲荷社」の額がかかっていて、お母さんの子を思う心や、先生のがんばるぞという強い心、そして、平和を大切にすることを伝わってきます。

【天神川に橋を架けた人達】

中橋は、多くの土地を所有していた西津田の三島博子さんの祖先が自力で架けた橋と言われ、住民は対岸にある新田の耕作などが大変便利になりました。神戸屋橋は、元禄の頃、出雲の神戸郷から津田中島に移住してきた、この辺りを開拓した百姓彦右衛門の孫にあたる神戸屋源兵衛が、交通の便を良くして耕作に精を出してもらおうと、自力で橋を架けました。